

円周率を求めるアルキメデスの方法の加速

半径1の円について、内接する正 n 角形の周の長さの半分を p_n 、外接する正 n 角形の周の長さの半分

を q_n とする。このとき、 $p_n = n \sin \frac{\pi}{n}$ 、 $q_n = n \tan \frac{\pi}{n}$ である。

アルキメデスは次の命題を幾何を用いて示したが、ここでは三角関数を用いて示す。

命題

$$q_{2n} = \frac{2p_n q_n}{p_n + q_n}, \quad p_{2n} = \sqrt{p_n q_{2n}}$$

すなわち、 q_{2n} は p_n と q_n の調和平均、 p_{2n} は p_n と q_{2n} の幾何平均(相乗平均)である。

証明

$$q_n = n \tan \frac{\pi}{n} \text{ であり}$$

$$2 \tan \frac{\theta}{2} = \frac{2 \sin \frac{\theta}{2} \cos \frac{\theta}{2}}{\cos^2 \frac{\theta}{2}} = \frac{\sin \theta}{\frac{1 + \cos \theta}{2}} = \frac{2}{\frac{1}{\sin \theta} + \frac{\cos \theta}{\sin \theta}} = \frac{2}{\frac{1}{\sin \theta} + \frac{1}{\tan \theta}}$$

であるから

$$q_{2n} = \frac{2}{\frac{1}{p_n} + \frac{1}{q_n}} = \frac{2p_n q_n}{p_n + q_n}$$

$$\text{また, } p_n = n \sin \frac{\pi}{n} \text{ であり}$$

$$2 \sin \frac{\theta}{2} = 2 \sqrt{\sin^2 \frac{\theta}{2}} = \sqrt{2 \sin \frac{\theta}{2} \cos \frac{\theta}{2} \cdot 2 \tan \frac{\theta}{2}} = \sqrt{\sin \theta \cdot 2 \tan \frac{\theta}{2}}$$

であるから

$$p_{2n} = \sqrt{p_n q_{2n}}$$

証明終

半径1の円について、内接する正 $2n$ 角形の面積は $n \sin \frac{\pi}{n}$ で p_n に等しく、外接する正 n 角形に面

積は $n \tan \frac{\pi}{n}$ で、 q_n に等しい。そこで、円を放物線で近似することにより、放物線と直線で囲まれ

た図形の面積を用いて、 p_n 、 q_n よりも精密な円周率の近似値を求め、次の命題を示す。

命題

$$p_n < \frac{1}{3} \left(4p_n - p_{\frac{n}{2}} \right) < \pi < \frac{1}{3} \left(2q_n + p_{\frac{n}{2}} \right) < q_n$$

証明

近似 p_n を精密化し、 π の値を下から抑える。そのため、 $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ として、座標平面上の原点を中

心とする半径 1 の円上の 3 点

$$(-\sin \theta, \cos \theta), (0, 1), (\sin \theta, \cos \theta)$$

を通る放物線 $C: y = 1 - \frac{1 - \cos \theta}{\sin^2 \theta} x^2$ を考える。

ここで、 $-\sin \theta < x < \sin \theta$, $x \neq 0$ において C は半円 $y = \sqrt{1 - x^2}$ の下側にある。

このとき、 C と直線 $x = -\sin \theta$, $x = \sin \theta$ および x 軸で囲まれた図形の面積は、

$$2 \int_0^{\sin \theta} \left(1 - \frac{1 - \cos \theta}{\sin^2 \theta} x^2 \right) dx = 2 \left[x - \frac{1 - \cos \theta}{3 \sin^2 \theta} x^3 \right]_0^{\sin \theta} = \frac{4}{3} \sin \theta + \frac{2}{3} \sin \theta \cos \theta$$

なお、この積分値はシンプソンの公式を用いても求まる。

これより、 $y \geq 0$ の部分で C と直線 $y = \frac{\cos \theta}{\sin \theta} x$, $y = -\frac{\cos \theta}{\sin \theta} x$ で囲まれた図形の面積 S は

$$S = \frac{4}{3} \sin \theta + \frac{2}{3} \sin \theta \cos \theta - \sin \theta \cos \theta = \frac{1}{3} (4 \sin \theta - \sin \theta \cos \theta) = \frac{1}{3} \left(4 \sin \theta - \frac{1}{2} \sin 2\theta \right)$$

$\theta = \frac{\pi}{n}$ のとき、

$$S = \frac{1}{3} \left(4 \sin \frac{\pi}{n} - \frac{1}{2} \sin \frac{2\pi}{n} \right)$$

S の n 倍が半径が 1 の円の面積の近似となるから

$$\pi \approx \frac{n}{3} \left(4 \sin \frac{\pi}{n} - \frac{1}{2} \sin \frac{2\pi}{n} \right) = \frac{1}{3} \left(4n \sin \frac{\pi}{n} - \frac{n}{2} \sin \frac{2\pi}{n} \right)$$

この近似式を p_n で表すと次のようになる。

$$\pi \approx \frac{1}{3} \left(4p_n - p_{\frac{n}{2}} \right) \quad \text{ただし,} \quad p_n < \frac{1}{3} \left(4p_n - p_{\frac{n}{2}} \right) < \pi$$

次に、近似 q_n を精密化し、 π の値を上から抑える。そのために、2 点

$$(-\sin \theta, \cos \theta), (\sin \theta, \cos \theta)$$

において、円 $x^2 + y^2 = 1$ に接する放物線 $D: y = \frac{2 - \sin^2 \theta}{2 \cos \theta} - \frac{1}{2 \cos \theta} x^2$ を考える。

ここで、 $-\sin \theta < x < \sin \theta$ において D は半円 $y = \sqrt{1 - x^2}$ の上側にある。

このとき、 D と直線 $x = -\sin \theta$, $x = \sin \theta$ および x 軸で囲まれた図形の面積は、

$$2 \int_0^{\sin \theta} \left(\frac{2 - \sin^2 \theta}{2 \cos \theta} - \frac{1}{2 \cos \theta} x^2 \right) dx = 2 \left[\frac{2 - \sin^2 \theta}{2 \cos \theta} x - \frac{1}{6 \cos \theta} x^3 \right]_0^{\sin \theta} = 2 \tan \theta - \frac{4}{3} \frac{\sin^3 \theta}{\cos \theta}$$

$$= 2 \tan \theta - \frac{4}{3} \frac{\sin \theta (1 - \cos^2 \theta)}{\cos \theta} = \frac{2}{3} \tan \theta + \frac{4}{3} \sin \theta \cos \theta$$

これより、 $y \geq 0$ の部分で D と直線 $y = \frac{\cos \theta}{\sin \theta} x$, $y = -\frac{\cos \theta}{\sin \theta} x$ で囲まれた図形の面積 T は

$$T = \frac{2}{3} \tan \theta + \frac{4}{3} \sin \theta \cos \theta - \sin \theta \cos \theta = \frac{1}{3} (2 \tan \theta + \sin \theta \cos \theta) = \frac{1}{3} \left(2 \tan \theta + \frac{1}{2} \sin 2\theta \right)$$

$\theta = \frac{\pi}{n}$ のとき,

$$T = \frac{1}{3} \left(2 \tan \frac{\pi}{n} + \frac{1}{2} \sin \frac{2\pi}{n} \right)$$

T の n 倍が半径が 1 の円の面積の近似となるから

$$\pi \approx \frac{n}{3} \left(2 \tan \frac{\pi}{n} + \frac{1}{2} \sin \frac{2\pi}{n} \right) = \frac{1}{3} \left(2n \tan \frac{\pi}{n} + \frac{n}{2} \sin \frac{2\pi}{n} \right)$$

この近似式を p_n , q_n で表すと次のようになる。

$$\pi \approx \frac{1}{3} \left(2q_n + p_n \right) \quad \text{ただし,} \quad \pi < \frac{1}{3} \left(2q_n + p_n \right) < q_n$$

証明終

例 $n=12$ のとき

$$p_{12} = 12 \sin \frac{\pi}{12} = 3(\sqrt{6} - \sqrt{2}) \approx 3.10582854123025$$

$$q_{12} = 12 \tan \frac{\pi}{12} = 12(2 - \sqrt{3}) \approx 3.21539030917347$$

$$\frac{1}{3} (4p_{12} - p_6) = \frac{12}{3} \left(4 \sin \frac{\pi}{12} - \frac{1}{2} \sin \frac{\pi}{6} \right) = 4(\sqrt{6} - \sqrt{2} - \frac{1}{4}) = 4\sqrt{2}(\sqrt{3} - 1) - 1 \approx 3.14110472164033$$

$$\frac{1}{3} (2q_{12} + p_6) = \frac{12}{3} \left(2 \tan \frac{\pi}{12} + \frac{1}{2} \sin \frac{\pi}{6} \right) = 4(4 - 2\sqrt{3} + \frac{1}{4}) = 17 - 8\sqrt{3} \approx 3.14359353944898$$

よって $3.141 \dots < \pi < 3.143 \dots$

円周率がほぼ 3.14 であることが示された。

テーラー展開による方法

$$\sin x = x - \frac{1}{6} x^3 + \frac{1}{120} x^5 - \frac{1}{5040} x^7 + \dots \quad \dots \textcircled{1}$$

$$\tan x = x + \frac{1}{3} x^3 + \frac{2}{15} x^5 + \frac{17}{315} x^7 + \dots \quad \dots \textcircled{2}$$

t を定数として、 $(1-t)\sin x+t\tan x$ の x^3 の項が無くなるように t の値を定めると、 $t=\frac{1}{3}$ であり

$$\frac{2}{3}\sin x+\frac{1}{3}\tan x=x+\frac{1}{20}x^5+\dots\dots$$

よって、 $x>0$ で x が十分小さければ

$$x<\frac{2}{3}\sin x+\frac{1}{3}\tan x$$

$x=\frac{\pi}{n}$ とし、両辺に n を掛けると

$$\pi<\frac{2}{3}n\sin\frac{\pi}{n}+\frac{1}{3}n\tan\frac{\pi}{n}$$

したがって $\pi<\frac{2}{3}p_n+\frac{1}{3}q_n$

①、②だけでなく、次の③、④も利用しよう。

$$\frac{1}{2}\sin 2x=x-\frac{2}{3}x^3+\frac{2}{15}x^5-\frac{4}{315}x^7+\dots\dots \quad \dots\textcircled{3}$$

$$\frac{1}{2}\tan 2x=x+\frac{4}{3}x^3+\frac{32}{15}x^5+\frac{1088}{315}x^7+\dots\dots \quad \dots\textcircled{4}$$

$(1-t)\sin x+t\cdot\frac{1}{2}\sin 2x$ の x^3 の項が無くなるように t の値を定めると、 $t=-\frac{1}{3}$ であり

$$\frac{4}{3}\sin x-\frac{1}{3}\cdot\frac{1}{2}\sin 2x=x-\frac{1}{30}x^5+\dots\dots$$

よって、 $x>0$ で x が十分小さければ

$$\frac{4}{3}\sin x-\frac{1}{3}\cdot 2\sin\frac{x}{2}<x$$

$x=\frac{\pi}{n}$ とし、両辺に n を掛けると

$$\frac{4}{3}n\sin\frac{\pi}{n}-\frac{1}{3}\cdot 2n\sin\frac{\pi}{2n}<\pi$$

したがって $\frac{4}{3}p_n-\frac{1}{3}p_{\frac{n}{2}}<\pi$

$(1-t)\cdot\frac{1}{2}\sin 2x+t\tan x$ の x^3 の項が無くなるように t の値を定めると、 $t=\frac{2}{3}$ であり

$$\frac{1}{3}\cdot\frac{1}{2}\sin 2x+\frac{2}{3}\tan x=x+\frac{2}{15}x^5+\dots\dots$$

したがって $\pi<\frac{2}{3}q_n+\frac{1}{3}p_{\frac{n}{2}}$

$(1-t)\tan x+t\cdot\frac{1}{2}\tan 2x$ の x^3 の項が無くなるように t の値を定めると、 $t=-\frac{1}{3}$ であり

$$\frac{4}{3} \tan x - \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2} \tan 2x = x - \frac{8}{15} x^5 + \dots$$

したがって
$$\frac{4}{3} q_n - \frac{1}{3} q_{\frac{n}{2}} < \pi$$

x^5 の係数が小さい組み合わせは次の不等式である。

$$\frac{4}{3} p_n - \frac{1}{3} p_{\frac{n}{2}} < \pi < \frac{2}{3} p_n + \frac{1}{3} q_n$$

平方根の計算が1回少ない組み合わせは次の不等式である。

$$\frac{4}{3} q_n - \frac{1}{3} q_{\frac{n}{2}} < \pi < \frac{2}{3} q_n + \frac{1}{3} p_{\frac{n}{2}}$$

正六角形を初期状態としての十進 BASIC でのプログラムは次のようになり、精度(有効桁)が p_n, q_n の約2倍に加速されることが確かめられる。

OPTION ARITHMETIC DECIMAL_HIGH

LET p=3

LET q=2*SQR(3)

FOR i=1 TO 827

LET p0=p

LET q=2*p*q/(p+q)

LET p=SQR(p*q)

PRINT p-pi

PRINT (4*p-p0)/3-pi

PRINT (2*p+q)/3-PI

NEXT i

END

一般化

$\lim_{n \rightarrow \infty} 2^n \sin \frac{\theta}{2^n} = \theta$ であるから、 $2^n \sin \frac{\theta}{2^n}$ は θ の近似値である。

$\sin \theta, 2 \sin \frac{\theta}{2}, 2^2 \sin \frac{\theta}{2^2}, \dots, 2^n \sin \frac{\theta}{2^n}$ の値が分かったとき、 $2^n \sin \frac{\theta}{2^n}$ よりも精密な θ の近似値

を高速に求めることを考える。最も簡単な方法は

$$y = \sin \frac{\theta}{2^n} \text{ として, } \theta = 2^n \arcsin y = 2^n \left(y + \frac{1}{6} y^3 + \frac{3}{40} y^5 + \dots \right)$$

とテーラー展開によって求めることである。

ここでは, $\sin \theta, 2 \sin \frac{\theta}{2}, 2^2 \sin \frac{\theta}{2^2}, \dots, 2^n \sin \frac{\theta}{2^n}$ の全てを使い, 逆関数のテーラー展開を用いない

方法を考える。

マクローリン展開が可能な奇関数 $f(x)$ を考える。 $\sin x, \tan x$ はこれに該当する。

$$f(x), f\left(\frac{x}{2}\right), f\left(\frac{x}{2^2}\right), \dots, f\left(\frac{x}{2^n}\right)$$

の各値が分かったときに x の近似値を求める。

$f(x)$ は奇関数であるから, $f(x)$ をマクローリン展開すると次のようになる。

$$f(x) = a_0 x + a_1 x^3 + a_2 x^5 + a_3 x^7 + \dots \quad \dots \textcircled{1}$$

よって

$$2f\left(\frac{x}{2}\right) = a_0 x + \frac{a_1}{4} x^3 + \frac{a_2}{4^2} x^5 + \frac{a_3}{4^3} x^7 + \dots \quad \dots \textcircled{2}$$

$$4f\left(\frac{x}{4}\right) = a_0 x + \frac{a_1}{16} x^3 + \frac{a_2}{16^2} x^5 + \frac{a_3}{16^3} x^7 + \dots \quad \dots \textcircled{3}$$

$$8f\left(\frac{x}{8}\right) = a_0 x + \frac{a_1}{64} x^3 + \frac{a_2}{64^2} x^5 + \frac{a_3}{64^3} x^7 + \dots \quad \dots \textcircled{4}$$

.....

①, ②より $a_0 x$ は残し x^3 の項を消去すると

$$\frac{4}{3} \cdot 2f\left(\frac{x}{2}\right) - \frac{1}{3} f(x) = a_0 x - \frac{a_2}{4} x^5 - \frac{5a_3}{16} x^7 + \dots \quad \dots \textcircled{5}$$

②, ③より $a_0 x$ は残し x^3 の項を消去すると

$$\frac{4}{3} \cdot 4f\left(\frac{x}{4}\right) - \frac{1}{3} \cdot 2f\left(\frac{x}{2}\right) = a_0 x - \frac{a_2}{64} x^5 - \frac{5a_3}{1024} x^7 + \dots \quad \dots \textcircled{6}$$

③, ④より x^3 の項を消去すると

$$\frac{4}{3} \cdot 8f\left(\frac{x}{8}\right) - \frac{1}{3} \cdot 4f\left(\frac{x}{4}\right) = a_0 x - \frac{a_2}{1024} x^5 - \frac{5a_3}{65536} x^7 + \dots \quad \dots \textcircled{7}$$

⑤, ⑥の x^5 の係数は $16:1$, ⑥, ⑦の x^5 の係数も $16:1$ である。よって,

$$\frac{16}{15} \cdot \textcircled{6} - \frac{1}{15} \cdot \textcircled{5} = a_0 x + \frac{a_3}{64} x^7 + \dots$$

$$\frac{16}{15} \cdot \textcircled{7} - \frac{1}{15} \cdot \textcircled{6} = a_0 x + \frac{a_3}{4096} x^7 + \dots$$

さらに、これら2式から x^7 の項が消去できる。

一般化するために、 $b_k = 2^k f\left(\frac{x}{2^k}\right)$ ($k=0, 1, 2, \dots$) と置き、 $a_0 x$ の近似値を求める。

b_k の k を1つ進める演算子を X 、すなわち $Xb_k = b_{k+1}$ と定める。このとき $b_{n,m}$ を

$$b_{n,m} = \frac{1}{4^m - 1} (4^m X - 1) \cdots \frac{1}{63} (64 X - 1) \cdot \frac{1}{15} (16 X - 1) \cdot \frac{1}{3} (4 X - 1) b_n$$

と定めると、テーラー展開の $x^3, x^5, \dots, x^{2m+1}$ の項が無くなり $b_{n,m}$ は b_{n+m} より良い近似値となる。

例 $b_{0,2} = \frac{1}{15} (16 X - 1) \cdot \frac{1}{3} (4 X - 1) b_0 = \frac{1}{45} (64 X^2 - 20 X + 1) b_0 = \frac{1}{45} (64 b_2 - 20 b_1 + b_0)$

一般に $b_k = 2^k f\left(\frac{x}{2^k}\right)$ ($k=0, 1, 2, \dots$) から $a_0 x$ のより良い近似値を求めるには、次の式の展

開式を求めれば良い。

$$\frac{1}{4^m - 1} (4^m X - 1) \cdots \frac{1}{63} (64 X - 1) \cdot \frac{1}{15} (16 X - 1) \cdot \frac{1}{3} (4 X - 1)$$

この展開式の X^k の係数を $c_{m,k}$ とすると

$$c_{m,k} = \frac{1}{4^m - 1} (4^m c_{m-1,k-1} - c_{m-1,k})$$

変形して

$$c_{m,k} = c_{m-1,k-1} + \frac{1}{4^m - 1} (c_{m-1,k-1} - c_{m-1,k}) \quad \text{ただし, } c_{m-1,-1} = 0$$

$p_n = 3 \cdot 2^n \sin \frac{\pi}{3 \cdot 2^n}$, $q_n = 3 \cdot 2^n \tan \frac{\pi}{3 \cdot 2^n}$ として、上記の漸化式を用い、 p_n , q_n よりずっと良い π の近

似値を求める十進 BASIC のプログラムを次に示す。

```
OPTION ARITHMETIC DECIMAL_HIGH
```

```
OPTION BASE 0
```

```
LET N=52
```

```
DIM c(N)
```

```
LET c(0)=1
```

```
LET d=1
```

```
FOR i=1 TO N
```

```
LET temp=0
```

```

LET d=d*4
FOR k=0 TO i
  LET temp1=c(k)
  LET c(k)=temp+(temp-c(k))/(d-1)
  LET temp=temp1
NEXT k
NEXT i
LET p=3
LET q=2*SQR(3)
LET s=c(0)*p
LET t=c(0)*q
FOR i=1 TO N
  LET q=2*p*q/(p+q)
  LET p=SQR(p*q)
  LET s=s+c(i)*p
  LET t=t+c(i)*q
NEXT i
PRINT s-pi
PRINT t-pi
END

```

次に、 $b_{n,m}$ が満たす漸化式を求める。

$$\begin{aligned}
b_{n,m} &= \frac{1}{3}(4X-1) \frac{1}{15}(16X-1) \frac{1}{63}(64X-1) \cdots \frac{1}{4^{m-1}-1}(4^{m-1}X-1) \cdot \frac{1}{4^m-1}(4^mX-1) b_n \\
&= \frac{1}{3}(4X-1) \frac{1}{15}(16X-1) \frac{1}{63}(64X-1) \cdots \frac{1}{4^{m-1}-1}(4^{m-1}X-1) \cdot \frac{1}{4^m-1}(4^m b_{n+1} - b_n)
\end{aligned}$$

よって

$$b_{n,m} = \frac{1}{4^m-1}(4^m b_{n+1,m-1} - b_{n,m-1})$$

変形して

$$b_{n,m} = b_{n+1,m-1} + \frac{1}{4^m-1}(b_{n+1,m-1} - b_{n,m-1})$$

例

$$b_{0,1} = \frac{1}{3}(4b_{1,0} - b_{0,0}) = \frac{1}{3}(4b_1 - b_0)$$

$$b_{0,2} = \frac{1}{15}(16b_{1,1} - b_{0,1}) = \frac{1}{15} \left\{ \frac{16}{3}(4b_2 - b_1) - \frac{1}{3}(4b_1 - b_0) \right\} = \frac{1}{45}(64b_2 - 20b_1 + b_0)$$

この漸化式による十進 BASIC のプログラムは次のようになる。

```
OPTION ARITHMETIC DECIMAL_HIGH
```

```
OPTION BASE 0
```

```
LET N=52
```

```
DIM p(N)
```

```
LET p(0)=2*SQR(2)
```

```
LET q=4
```

```
FOR i=1 TO N
```

```
  LET temp1=p(0)
```

```
  LET q=2*p(0)*q/(p(0)+q)
```

```
  LET p(0)=SQR(p(0)*q)
```

```
  LET d=1
```

```
  FOR j=1 TO i
```

```
    LET d=d*4
```

```
    LET temp2=p(j)
```

```
    LET p(j)=p(j-1)+(p(j-1)-temp1)/(d-1)
```

```
    LET temp1=temp2
```

```
  NEXT J
```

```
  PRINT i,p(i)-PI
```

```
NEXT i
```

```
END
```